

自治会 第58号 あつぎ

目 標

- ◎みんなの手で育てようあすの自治会を
- ◎地域づくりは市民の民主的・自発的な活動から
- ◎行政と協働で築く豊かな地域社会

発行 厚木市自治会連絡協議会
編集 自治会連絡協議会広報部会
電話 046-225-2101



厚木市自治会連絡協議会 佐藤会長

昨年十月十九日から、ごみ減量化・資源化新システムが始まり、スムーズに移行することができました。ご協力有難うございました。

新システム移行については、モデル地区（相川・玉川・森の里）で六カ月にわたり試行錯誤のうえに、理事会で数回の話し合いが行われ、色々なアイデアを出していただいた結果、全地区に移行できました。

モデル地区の方々には大変なご苦労をおかけしたことに對しまして感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございます。お陰様で全地区も一年を経過しようとしているところですが、どこの地区でも当初は苦労があるようです。しかし、段々と良くなってきていると思います。

これも自治会長を始めとする皆様方のご努力・ご協力の賜物と感謝しています。

しかし、まだまだ資源として眠っているものもあり、例えば家庭から出る庭木の剪定枝・刈り取った雑草など、資源対策課では家庭から出る廃食用油の資源化も来年一月から始まる予定です。

最終的にはミッション35に向かって皆様方お一人お一人のご協力が必要です。目標達成に向け私もがんばります。いづれにしましても皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

資源化率35%に向かって なおいっそうのご協力を！

厚木市自治会連絡協議会
会長 佐藤 信雄

本厚木ハイデンス 「防災訓練」の紹介

小鮎地区本厚木ハイデンス自治会
会長 百瀬 英夫

ハイデンスは現在百三十四世帯、三百二十九名が居住し六十歳以上が百二十名を超えています。防災訓練は重要な活動になっています。

防災訓練は自主防災隊が企画し、毎年市の防災訓練に合わせ行っています。訓練の内容は、

①訓練までの活動、六月までに自治会、管理組合の役員が決定し会長、理事長が自主防災隊の隊長、副隊長に就任し、各階の防災員及び通報、消火、避難誘導、警備、給食給水の役割分担を決め八月下旬に訓練の日程、手順を決定し八月月中旬に各隊担当者に徹底します。

②訓練実施要領(a)9月上旬市のサイレンを合図に敷地内放送、ハンドマイクで避難開始を伝達(b)住人は部屋の扉に「全員避難しました」の非難カードを添付し、家族と共に隣接公園の九階の番号旗の所に避難し、氏名人数を報告する。(c)各階の責任者は避難していない住民宅に避難を促し、避難カードの表示、不表示及び避難不可能



消火訓練

者を確認し公園の集計責任者に報告する。(d)集計責任者は(b)(c)を集計し隊長に報告する。(e)救助訓練実施①三角巾、担架、簡易トイレ、リヤカー等の組立実演②消火器の操作と消火訓練を行う。

(f)最終に副隊長のあいさつで防災訓練を終了。訓練は午前八時三十分〜十一時まで行う。また、毎年ではないが、けが人・高齢者を上階からの救出及び炊き出し訓練を行っている。

”心通う、住みよいまちづくり“は対話から

南毛利地区下長谷自治会
会長 中村 富雄

長谷地区は小野橋から国道

246号線に抜ける旧幹線道路沿いの細長い地区で、直線にして二・五kmの区域であります。我が下長谷自治会は東に位置し、昔は道路に沿った小川に各戸に橋が架かった二十四戸の地域で、北側は山、南側は見渡す限りの田んぼでした。ところが今日では、小川の上部は歩道となり、田んぼは住宅、倉庫、工場が立ち並び、二十四世帯は三百世帯以上の地域となっています。

自治会では「心通う住みよいまちづくり」に取組もうと、様々な活動を展開し、自治会の役割も、果たす事柄もますます重要視されて来ています。通常の自治会活動に加え、奉仕活動や「下長谷パトロール青年会」や「下長谷パトロール隊」が自主的に組織され特にパトロール隊は週二回児童生徒の下校見守り、公園の掃除や遊具の点検等、安心して住める、まちづくりのために活動しています。

そして、地域のコミュニケーションを図る機会として、秋には芋煮会を開催し、大釜で野菜や肉を煮こんだ芋煮、焼き鳥、地域持ち寄りの手料理を囲み、カラオケを楽しむなど、親睦を図る大変良い機会となっております。

今後自治会活動を通して心通う、住みよいまちづく



絆を深めた芋煮会

毛利台夏祭り

毛利台自治会連絡協議会
会長 西澤 寛

毛利台地区の夏祭りは、今年も八月二十一日例年になく酷暑の中、一丁目・二丁目・三丁目・ハイツの四自治会が合同で主催し、毛利台小学校の校庭をお借りして賑やかに開催いたしました。各自治会、青少年育成親和会(老人会)、虹の会(地域福祉推進委員会)、子ども一〇番の家運営委員会(毛利台小学校PTA)がそれぞれに模擬店を開いて会



浴衣で楽しい夏祭り

場の雰囲気を感じてくれました。毛利台地も高齢化と共に子どもの数が減って、年々参加者が減少し、寂しくなっておりますが、三年ほど前から愛名、高坪、長谷地区の毛利台校区の子どもたちにも参加の声をかけ、また、玉川中学校の brassバンド部、和太鼓演奏のクラブ(たまゆら)の演奏、昨年から毛利台小学校の生徒による『花笠音頭』踊りも加わって参加者は倍増し、今までの夏祭りの賑やかさを取り戻しました。

各学校の地域へのご協力に、この紙面をお借りして感謝申し上げます。

夏祭りを通してこの地域の絆がより強く結ばれることを願っております。



三角巾の使い方を学ぶ参加者

災害に備えて 「自助」と「共助」

災害に対する備えとしては、自分の安全は自分で守るといふ「自助」が基本です。普段から一人一人が災害に関する知識を身につけ、準備をしておくことが大切です。

次に自分たちの住んでいる地域の安全を、地域住民が互いに助け合って守るという「共助」も重要だと思います。いざという時に頼りになるのは、顔見知りの隣近所の方です。



僕も参加した防災訓練

す。これまでの災害事例で、最も多くの人命を救ったのは地域の住民であると言われています。

自治会では、この「共助」の体制を整えるため、自主防災隊を組織して災害に備えています。いざという時に一人一人がばらばらの行動をとっているのでは、せっかくの活動も十分な力を発揮することはできません。自分たちの住む地域は自分たちで守るといふ自主防災の気持ちを持って、日ごろから地域でコミュニケーションを図り、災害に備えましょう。

そのためにも、自治会に加入することを勧めます。

自治会活動で 楽しいひと時を

厚木南地区南町自治会
会長 池内賢二

自治会活動へは、義務感に縛られて「イヤイヤ参加する」のではなく、あくまで自主的に進んで行うことを基本としています。

そのためには、少なくとも参加後は「楽しいひと時」・「有意義な時間」だったと感じてもらうことが肝要であり、さらには参加したことへの「満足感・充実感」も得られるような運営であるべきだと考えています。

このことを実践するために左記のとおり「自治会活動の考え方」を明確にし、年度初めに開催する定期総会で説明のうえ、全役員了解のもと、年間の活動(諸行事)を開始することにしています。

①自治会活動の目的は、積極的に参加して「心の通い合う親しい友人」をたくさんつくることである。

②自治会活動は、「和気あいあい楽しい」をモットーとし、参加者同士の心の触れ合いの場とします。

③自治会活動の最優先課題は、「生活環境の美化」とし、誰でも住みたくなくなるような美

しい町内を維持します。

④自治会活動への参加は、「家庭の用事を最優先」とし、無理のない範囲で参加していただき欠席する場合は必ず連絡する。

⑤自治会活動とは、「助け合い・支え合い活動」のことである。



サーフコミュニティ モデル地区になつて

依知北地区下川入第三自治会
会長 波博義

下川入第三自治会は、地域の真ん中を横須賀水道路が縦断しており、朝夕には通勤通学路となつています。また、水道路の両側には畑と水田が広がり、とても自然豊かな場所でもあります。現在の悩みは新興住宅増加に伴う子どもの増、また一方では高齢者の増など、いろいろな課題が生じていることです。

そこで今回自治会としてある挑戦をすることにしました。それは、現在、厚木市が取り組んでいるサーフコミュニティ



ワークショップの様子

イ推進です。この推進活動をきつかけに問題解決につながるべしと思ひ、サーフコミュニティモデル地区に指定を受け取り組んでおります。

まず推進メンバーを選し、会合を始めましたが、メンバーから「こんなやらないで、会長がやれば」という批判の声もありました。しかし、諦めず二、三回会合を行うことによりサーフコミュニティの理解が深まり、現在では二カ月に一度定期的に開催しています。グループ分けをし、ワークショップ方式で自治会内の問題を洗い出し自分たちで対処するもの。行政の協力を得るものと仕分け活動するように「出合い、ふれあい、会話」の機会が多くな

り悩んでいたことが少しづつ解消され、逆に力強さを感じているところではあります。

今後もサーフコミュニティ推進を継続し、地域の安心安全に役立てたいと思っております。

抑止力を高める青パト車 によるパトロール活動

睦合南地区自治会連絡協議会
会長 中野正義

私たち、各地区自治会役員は地区の住民が安心して暮らすことのできる環境づくりに目を向けて日々努力してまい

今年度は、睦合南地区安心安全なまち会議として各自治会に呼びかけて青パトによる防犯パトロールを実施しています。最初に三地区の自治会で青パト実施者講習会を開催し、四月十九日付けで厚木警察署から地区内の青パト車の運行について許可されました。そして、陸運局へ使用車両の手続きをし、車検証に自主防犯パトロール車の明記をしていただきました。五月十日、副市長を始め、多数のご来賓のご出席をいただき、各自治会からサーフティベストを着た五十余名の参加者を得て盛大に青パト出発式を開催しま



地域力を高める防犯パトロール

した。出発式の後、それぞれの地域に向かつてパトロール車や徒歩で防犯パトロールを実施しました。

その後も、車両提供の申し出や講習会受講者が増え、現在では青パト車両七台とパトロール実施者の数は、さらに三地区の各自治会も参加し、合計六地区五十二名となりました。

今では、運転者の予定に合わせながら、それ以外の実施者が参加予定を書き込み、頻りにパトロールを実施するようになりなりました。

少しでもこの活動が抑止力となつて犯罪のない地域社会に変わっていくことを願っています。

子合地蔵尊夏祭り

荻野地区子合自治会
会長 高足貞治

下荻野子合地区には、名僧行基の作と伝えられ千三百年の歴史を誇る「日本三躰地蔵尊」があります。

新編相模風土記によると、享保二年(千七百十七年)の再建の棟札には「本尊は行基作の同木・同作による日本三躰地蔵にて、一躰は河内国丹南郡壺井にあり、他の一躰は奥州安達郡子安にある」と記されています。古くより安産・子育て地蔵として近隣の人々の信仰を集めてきたわけですが、近年、人口が増加し、この地蔵の存在を知らない人が多くなりました。十数年前に子合地蔵尊保存会が結成され、広く人々に知ってもらい、これからも大切に保存していこうということになりました。

昔から毎年八月十五日・十六日の両日が夏祭りとして定められ、特に十六日は年一度のご開帳で本尊を直接拝顔でき、その日に盆踊りが催されます。昨年は広場も以前の三倍広くなり、大勢の人々がゆつたりと踊れるようになったのです。御守りや盆踊りの歌もでき、場内は出店の数



日本三躰地蔵 子合地蔵尊

も増えたことで子どもたちや付き添う大人も増えて次第に賑やかさが増してきました。毎年夏祭りの中心に地蔵尊があり、それを取り囲む住民の親睦も深まり、強い絆となっております。

子中の繁栄の基盤の一つとして、子合子育て地蔵尊は地域の人々を結び、まさに子中地区の『宝物』と言えるかも知れませんね。

東の風は暖かい

荻野地区東自治会
会長 三橋知弘

私は、荻野の東地区で生まれ育ち、学生時代からは親元を離れ退職後に実家に戻りました。昨年、少しでも生まれ



天覧所公園にある明治天皇の天覧記念碑

故郷のお役に立てればと自治会長を引き受けました。

隣接地区にみはる野団地ができました。お互い仲良くやっていきたいと思います。

東地区は国道412号の旧道より鳶尾山側にあり、現在自治会員数は約一六〇世帯です。東自治会事業の拠点として天覧所公園(明治天皇が近衛兵の演習を天覧された場所)とみはる野スポーツ広場(調整池)は重要な活動拠点となっております。

①元旦には、天覧所公園に集まって大山を仰ぎつつ「賀詞交換会」を実施しています。

②一月中旬には、みはる野スポーツ広場で「どんど焼き」を子ども会と協同で実施しています。今年のみはる野自治会と共催で実施。

災害時の共助体制の 確立に向けて

小鮎地区古松台自治会
会長 辻久雄

③七月初旬の「夏期一日美化清掃」では班毎の道路清掃後に天覧所公園に集合して皆で雑草刈りをします。

④九月初旬の「防災訓練」もみはる野スポーツ広場を使用して実施します。

⑤十二月の「年末美化清掃」についても夏期と同様で実施しています。

みんなの顔がみえる自治会にしていきたいと思います。

災害が起きたときの対応として、「自助・共助・公助」という言葉を聞きます。

「自助」とは、自分の命は自分で守るということ。「共助」とは、周りの方と助け合うこと。「公助」とは、行政の公的な支援のことです。阪神・淡路大震災においても、災害発生直後の倒壊家屋からの救出や消火活動など、地域ぐるみの救援、救助活動(共助)が大きな役割を果たしたといわれています。

こうした教訓を踏まえ、高齢者の救命・救助の必要性から自治会活動のなかにあ



救出 救護訓練タンカの作り方

って、地域の自主防災隊活動の重要性がますます高まっております。小鮎地区においては、千頭上、千頭中下、南千頭、アメニティヒル本厚木、台、古松台の六自治会は、「共助」の体制を強化するために、毎年九月に合同で自主防災隊総合訓練を実施してきております。組織役員の高齢化による活動要員の不足、自主防災活動に対する住民の意識不足、活動のマンネリ化という課題を抱えておりますが、五百余名が同じ目標に向かって訓練することは大いに意味があるものと考えております。いざという時に役立つ自主防災組織の確立を目指して今後とも工夫を重ねてまいります。